



会員番号(No.48447):上山 由美子氏 撮影

特集

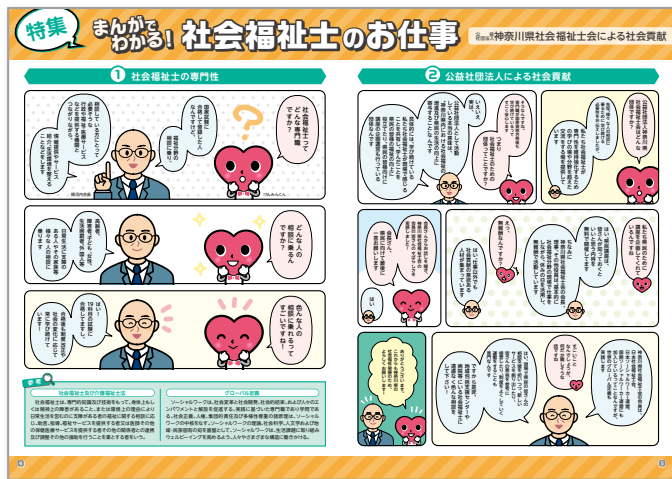
公益社団法人化10周年記念企画
「共生社会とソーシャルワーク」
の報告 p.2-3

- DWAT金沢市 1.5次避難所レポート p.4-5
- 第32回 日本社会福祉士会全国大会・
社会福祉士学会(栃木大会) p.6
- 2023(令和5)年度 理事会報告 p.7
- 公開講座・研修情報 p.8



1987年、社会福祉士及び介護福祉士法制定、1992年、神奈川県社会福祉士会設立総会を経て、2013年、神奈川県社会福祉士会は公益社団法人となりました。

つまり、社会福祉士の自己研鑽や交流の場を越え、「神奈川県内における社会福祉の増進及び県民の生活の向上に寄与すること」を目的とした公益社団法人として再出発して10年が経ったということです。



公益社団法人による社会貢献については、2022年7月に発行した広報誌36号「特集まんがでわかる!社会福祉士のお仕事」をご覧ください。

そして会員の皆さんはこれを活用して社会福祉士の専門性について周知にご協力下さい。県民の皆さん、バックナンバーは、すべてホームページで見ることができます。

<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/29/>

当日、隅河内会長による講演「ソーシャルワーカーが創る共生社会」では、「社会福祉士の倫理綱領とグローバル定義」「ノーマライゼーション」「共生社会」「メゾ・マクロの視点」を再確認しつつ、その実践ができる社会福祉士を増やすために新しい研修を準備しているとの説明がありました。

●ソーシャルワーク専門職のグローバル定義

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。

社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。

ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。

その後、厚生労働省社会・援護局社会基盤課福祉人材確保対策室の吉田昌司室長による講演「共生社会の実現に向けて社会福祉士会に期待すること」では、「社会福祉士国家試験内容の改正」「地域共生社会」「重層的支援体制整備事業」「多機関協働」「アウトリーチ」「住民主体」等の説明後、住まいや災害時等における社会福祉士の活躍について評価頂きました。



「共生社会とソーシャルワーク」の報告

講演後、例年行ってきた実践発表大会をシンポジウム形式で開催しました。

地域共生社会の実現に向けて取り組んでいる個人、支部、委員会が活動紹介を行い、それぞれがグローバル定義にある「社会開発」「社会的結束」「社会開発」をどのように実践しているかについて再確認する場となりました。一緒に聞いている県民の皆さんには、社会福祉士は様々な対象層の個別支援を専門としつつ、様々な知識と技術を持つ専門職としてのイメージが伝わったのではないのでしょうか。



金井 直子



重本 晴賀



横山 昂



本多 洋実



野田 有紀

その後の懇親会では、公益社団法人10周年を祝いつつ、名刺交換タイムを設け、新しい出会いを楽しみました。そして、講演とシンポジウムの内容について意見交換をすることで、県民の福祉向上に寄与する新たな決意をする機会となりました。



社会福祉士養成課程の教育内容等の見直しが進められ、2021年度から新しい教育内容で講義が始まり、2024年度の国家試験からはそれが試験問題となります。

その背景には、今後、地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するため、ソーシャルワークの専門職としての役割を担って行ける実践能力を有する社会福祉士を養成する必要があるということです。

時代に応じた課題に対応できる専門性を維持強化するため、神奈川県社会福祉士会に加入する会員は、常に自己研鑽し、仲間と情報共有しております。

8つの支部で地域連携を強化し、各委員会では子ども家庭支援、地域包括、自殺対策、災害対策、多文化ソーシャルワーク等のテーマ毎に専門性を深めております。

まだ会に加入していない方は、是非、本年度を機に加入して下さい。

この広報誌は、行政機関の福祉部署、地域包括支援センター、社会福祉士養成校等にも発送させて頂いております。県民の皆さん、公益社団法人11年目もよろしくお願いします。

文責：広報委員会委員 木村有孝

DWAT金沢市 1.5次避難所レポート

災害対策委員会

神奈川県社会福祉士には平成29年に立ち上げた災害対策委員会があります。活動内容は災害支援活動養成者研修の実施や災害支援のための啓発イベント、関東甲信越ブロックへの参加、大規模土業連絡協議会への参加、ソーシャルワーカー3団体災害支援連絡会で活動等行うために委員会は2か月に1回ほど行っています。

神奈川DWAT

また都道府県の災害時の福祉支援体制の構築のため「かながわ災害福祉広域支援ネットワーク」に取り組みに参加して、研修等の実施により災害時に要配慮者を支援するため研修等の実施により人材育成を図ってきました。その中から国のガイドラインに基づき、一般避難所において活動する「神奈川災害派遣福祉チーム(神奈川DWAT)を平成2年度により設置されました。

DWATの構成要員は社会福祉士をはじめ、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、保育士、看護師、理学療法士、臨床心理士、相談支援専門員等が登録しています。

被災地派遣

今回令和6年1月1日に発災した能登半島地震で、神奈川DWATとしては初めて出動要請があり、私はその第1陣として1月31日～2月4日まで派遣されてきました。

支援に行った場所は金沢市のいしかわ総合スポーツセンターの1.5次避難所でした。

1.5次避難所とは、災害発生時に開設された1次避難所などから自宅の復旧や2次避難所などの入居までの間、被災者の生活環境を確保するため高齢者や障害者、乳幼児など介護や配慮が必要な人を優先して入る場所なので、8割以上が高齢者、障害者の方たちでした。

いしかわ総合スポーツセンターに避難されていた方々は主に能登や輪島に住んでおられた方で、能登からは空輸で非難されてきたと伺いました。

私たち神奈川DWATは石川DWATのお手伝いということで、各県からのDWATと共に支援に入っていました。技術提供として支援経験のある群馬DWAT、静岡DWATが入り、リーダー的役割で鳥取DWAT、大阪DWAT、その援助で神奈川、栃木、徳島、広島DWATが入りました。

派遣当時200名弱の方々がそこに避難され、各々の個別テント(1～2名)で過ごされ、入浴・食事・介護の提供がされていました。私たちは被災者の過ごしている個別テントを訪問し、アセスメントシート(石川DWAT仕様)に随って聞き取りを行い、被災状況の把握、介護保険や計画相談の有無、服薬状況などの聞き取り、生活再建に向けた支援の組み立ての聞き取りを行いました。元々養護老人ホームにいた人は他県の施設に移って行かれたりする人もいました。

高齢者の多くは被災時に介護保険の適応がされていたか、地方あるあるで未申請の人も多く、避難所に来てから新規介護保険申請が必要の有無の検討や、また介護保険施設に移る必要があるなら介護保険申請は必須になってくるので、慌てて避難所で申請をする方もいました。

当時避難所ではコロナとノロウイルスが流行っており、中には入院される方もいる中で、保健師のチームは毎日の健康観察を行い、介護が必要な方は介護福祉士チーム(介護福祉士会)が24時間体制で支援を行っていました。

リハビリや福祉用具の貸与はJRATチーム、医療的ケアは医師、看護師チーム、薬剤師チーム、保険チームが入っていました。

—DWATに参加して—

2次避難所に向けての支援

今後の生活の場として、健康な方はホテル等の2次避難所、介護等必要な方は施設避難へつなげることが主な活動になっていました。2次避難所は民間企業(JTB)がコーディネートしているホテル等で、食事付きの場所を希望される人が多かったが、実際にはそうでない所もあって自分たちで食事等の確保をしなくてはならない所もあり、仮設住宅に入居できるまで1.5次避難所にいることを希望される人も多く、いったんはホテルに移動されても再度1.5次避難所に戻ってくる被災者の方もいました。またホテル等も3月半ばからは観光客を受け入れたり、長期化する被災地支援のための支援者がキープしたりと実際にホテルでの生活は長くはできないのが現状でした。

DWATとして

被災地ではまだまだ支援が必要であり、支援機関は長引くであろうと思われませんが、DWATとしての活動3原則は「被災者中心」「地元主体」「連携・協働」で、DWATの一員として今回の支援に関わった経験はとても大きく、まだ続くであろう石川県の支援、またどこかで起こるかもしれない災害(神奈川県が被災地なるかもしれない)での活動課題が見えてきたので、後に続くメンバーとも情報を共有して今後につなげていきたいと思いました。(2/16まで4班が引き続き支援に入った)



第32回

日本社会福祉士会全国大会・ 社会福祉士学会 栃木大会

会期 2024年6月22日(土)～23日(日) 会場 ライトキューブ宇都宮(宇都宮駅東口交流拠点施設)

「これからの地域共生社会を担う社会福祉士としての挑戦」 ～いちご一会をつなぎ未来を描いてゆく～



一般社団法人 栃木県社会福祉士会 会長 松永千恵子



神奈川県社会福祉士会の皆様へ。

この度は、神奈川県社会福祉士会様の会報に栃木大会(全国大会)をPRする機会を頂戴し誠にありがとうございます。栃木大会の準備は、栃木県社会福祉士会の実行委員会を中心に、熱い情熱を持って着々と進んでいます。

開催日は2024年6月22日(土)、23日(日)、場所はJR宇都宮駅東口から徒歩2分の「ライトキューブ宇都宮」です。まだ真新しいコンベンションホールです。

大会テーマは「これからの地域共生社会を担う社会福祉士としての挑戦～いちご一会をつなぎ未来を描いていく～」といたしました。まだまだ発展段階にある地域共生社会ですが、それにかかわる社会福祉士同士、今はどのような現状で、何が問題で課題は何かなど率直な意見交換をさせていただき、このテーマに関する学びを深めていただけましたら幸いです。

栃木大会では、厚生労働省の吉田昌司福祉人材確保室室長による「地域共生社会」の行政講演の他に、上野谷加代子先生による「地域共生社会と社会福祉士」(仮題)、宇都宮市で重症障がい児者とその家族を一体的に支援している認定NPO法人うりずんの高橋昭彦先生による重症障がい児支援のご講演を予定しています。

開催要綱も先日、出来上がりましたので、もう間もなく皆様のお手元に届くことと存じます。

さて、栃木県には日本を代表する観光地の日光がございます。「あらたうと青葉若葉の日の光」と松尾芭蕉は日光を訪れてこの句を詠みました。この句のとおり、初夏の日光の山々の木々は光り輝き、初夏の若葉と伸びていく青葉の美しさを感じられます。また、同時にこの句は、日光東照宮を、加えてそこに祀られている徳川家康を称賛する句であると解釈されています。大河ドラマに興味関心のある方は、是非、日光東照宮や徳川家康の霊廟に足をお運びください。

さらに栃木県はおいしいものも充実しています。栃木県にお越しになったら、「餃子」を是非、お召し上がりください。

宇都宮市内には多くの「餃子」のお店があり、餃子の種類も豊富です。餃子の他に、栃木県は「いちご」の大産地でもありますので、「とちおとめ」、「スカイベリー」などフレッシュないちごも御堪能いただけます。

3月15日に栃木大会の申し込みが開始されました。皆様に栃木大会でお会いできることを楽しみにしています。

基調講演

上野谷加代子氏(同志社大学名誉教授)

記念講演

高橋昭彦氏(ひばりクリニック院長
NPO法人うりずん理事長)

ギョーザの街、
カクテルの街、
ジャズの街宇都宮で
語り合しましょう!



懇親会にU字工事出演!



栃木大会ホームページ
<https://tochigi-csw.com/>



〈2023(令和5)年度 理事会報告〉

※2023年度は集合会議とオンライン会議を併用して開催

■臨時理事会 2024年1月16日(火) 19:30~21:15 [オンライン会議]

議長: 隅河内会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席: 理事15名 監事: 東海林・事務局2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(12月分)…12月入会審査対象者6名全員承認。ほか転入0名、退会6名、12月末会員数3,183名、県内登録者数21,059名、組織率15.11%。入会審査対象者のうちキャンペーン(30歳以下入会金免除)の対象者は0名。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況について…新規登録者1名、抹消申請者0名、資格喪失0名で家裁名簿登載者556名、登録者全体で679名。推薦依頼は12月27件依頼で22件が調整中。法人後見は14件。 議案3: 支部幹事の変更について(横須賀三浦支部)について…大幅に業務内容や受託事業の予算が変わらないことを前提とし、継続していくことの提案があり承認。

協議事項〈全了承〉 ①2024年度本会事業計画・予算案 一次審査後について ②10周年記念企画(本会法人での企画)進捗状況 ③賀詞交歓会の開催について

■通常理事会 2024年2月13日(火) 19:32~21:15 [オンライン会議]

議長: 田中副会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席: 理事14名・欠席4名 監事: 東海林・本多・事務局2名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(2024年1月分)…1月入会審査対象者0名。ほか転入1名、転出3名、退会3名、1月末会員数3,184名、県内登録者数21,067名、組織率15.11%。入会審査対象者のうちキャンペーン(30歳以下入会金免除)対象者0名。 議案2: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…新規登録者0名、再登録者2名、抹消申請者2名、資格喪失0名で家裁名簿登載者が557名、登録者全体で680名。推薦依頼は1月32件依頼で25件が調整中。法人後見は14件。 議案3: 規則改正案について…規則19号 文書取扱規則改正案について承認。

協議事項〈全了承〉 ①2024年度神奈川県社会福祉士会事業計画案について ②2024年度神奈川県社会福祉士会予算案について ③2024年度事業計画予算案の会員からの意見伺いホームページ掲載期間の設定について ④支部役員連絡会・事業部委員会連絡会開催日程 ⑤10周年記念企画(本会法人での企画)進捗状況 ⑥広報委員会からの動画メディアに関する意見への対応について

■臨時理事会 2024年3月9日(土) 13:30~15:20 [神奈川県社会福祉センター4階 401]

議長: 田中副会長 議事録署名: 出席全理事・監事 出席: 理事12名・欠席6名 監事: 東海林・事務局1名

審議事項〈議事全承認〉 議案1: 入退会審査(2024年2月分)…2月入会審査対象者0名。ほか転入2名、転出5名、退会14名、2月末会員数3,167名、県内登録者数21,062名、組織率15.04%。入会審査対象者のうちキャンペーン(30歳以下入会金免除)対象者0名。 議案2: 会費未納による会員資格喪失について…対象一覧の氏名(11名)について、確認した。 議案3: ばあとなあ神奈川後見人等候補者推薦、法人後見状況…新規登録者0名、再登録者0名、抹消申請者0名、資格喪失0名で家裁名簿登載者が555名、登録者全体で680名。推薦依頼は2月43件依頼で34件が調整中。取下げ1件。法人後見は14件。 議案4: 2024年度神奈川県社会福祉士会事業計画案について…一部修正後、承認。 議案5: 2024年度神奈川県社会福祉士会予算案について 議案6: 2024年度資金調達及び設備投資の見込について…予定無し。 議案7: 基準3号広告等の同封・掲載に関わる基準改正について…求人掲載期間の変更

協議事項〈全了承〉 ①2024年度神奈川県社会福祉士会事業計画予算案の会員からの意見伺いホームページ掲載結果 ②2024年度4月~6月までの理事会・総会日程検討: 理事会4/9、5/14、6/5 総会6/29午後(開催予定)



公開講座 & 研修会

お申込み・
お問合せは

電話: 045-317-2045

FAX: 045-317-2046 e-mail: web@kacsw.or.jp
公益社団法人神奈川県社会福祉士会 事務局 までお願いします。

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
5	17	19:30	21:00	社会福祉士交流会	社会福祉士同士が繋がり、情報共有をする場です。オンラインでも名刺交換、連絡先交換できますよ。2次会もあります。	各自宅で オンライン	組織率向上 委員会	社会福祉士 (会員、入会を 検討している 非会員)	無料
5	18	14:00	17:00	湘南東支部全体会 懇親会 兼 新入会員歓迎会 17時～	第1部23年度事業収支報告24年度計画・予算等、第2部市民公開講座「医療&福祉の専門家による健康支援のススメ医療・福祉・住民のそれぞれの役割」講師:西岡大輔氏(大阪医科薬科大学講師、南丹市国民健康保険美山林健センター診療所長)	藤沢市商工会館 ミナパーク6F 多目的ホールI	湘南東支部	支部会員、 県士会会員、 県内在住・ 在勤の市民	無料
5	26	13:30	16:00	横浜支部全体会	第1部事業報告・計画等の説明、第2部講演会「当事者の人生に寄り添う～あきらめない若年性認知症ケア～」	ウィリング横浜 123号室	横浜支部	支部活動 及び テーマに関心 のある方	無料
6	14	19:00	20:30	川崎支部全体会	前半の川崎支部の事業報告等の後、後半の研修(DWAT活動紹介)を開催。懇親会も予定しています。	てくのかわさき	川崎支部	前半は 川崎支部会員、 後半は 会員も参加可	無料

開催を予定しております研修・公開講座等は、新型コロナウイルス等の感染状況により、やむなく開催を中止、あるいは延期する場合がございます。ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。
なお、最新の状況につきましては本会のホームページをご確認ください。

<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/234/>

神奈川県社会福祉士会 研修講座

🔍 検索



BEST SHOTを
お待ちしております!



表紙写真大募集!!

あなたの写真で「かながわの風」の表紙を飾りませんか?

広報委員会では「かながわの風」の表紙を飾る写真を募集しています。

テーマ 神奈川の風景

カメラ デジタルカメラで、一眼レフやコンパクトカメラ、スマートフォンなど機種は問いません。

画素数 3024×4032ピクセル以上

送信先 koho@kacsw.or.jp

《ご注意》

- 写真のファイルサイズが大きい場合は、クラウドストレージなどをご利用ください。送信方法がご不明な場合は、左記メールアドレスまでご相談ください。
- 人物を被写体にしないでください。人物が個人を特定できるサイズで写っている場合は、同意を得た場合でも採用しない場合があります。
- 採用する場合は、掲載発行前にメールにてご連絡を差し上げます。不採用の場合はご連絡を差し上げませんので、ご容赦ください。

編集委員も 同時募集中!



本会会員の皆様の中で、広報制作に興味・関心がお有りの方は、事務局までお知らせください。是非、新しい「風」づくりに参加をお願い致します。なお、広報委員会は原則として奇数月の最終週の火曜日、19:00～21:00に開催しております。

(広報委員長:日向 明)

編集後記

忘却を拒み、風化に抗う・・・



1995年1月17日5時46分、2011年3月11日14時46分、2024年1月1日16時10分、小生が少し瞼を閉じて記憶の旅に出ただけでも、目を背けなくなるような映像が鮮明に蘇る・・・

私たちが震災を想う上で繰り返し大切に「忘れない・・・」という文字は、薄れつつある記憶への強い決意であるとともに、被災地外で日々を営む人々の記憶から消えかけている「震災」への挑戦ではなからうか・・・

今もなお、大切な方の遠い声を探している多くの方々がいることを私たちは忘れてはならない。今日もまた、赤さびた鉄骨や、押しつぶされた家屋、そこに確かにあった団らん、訪れるはずであっ

た素晴らしい瞬間(とき)に優しく話しかけるのだろうか・・・。「一目だけでも逢いたい・・・」と。

今この瞬間も、現在進行形の震災に立ち向かい復興半ばにある被災地に私たちは何が出来るであろうか。ボランティアに参加したり、被災地の産品を購入したり、様々な支援の形があるが、最も大切な事は、職場や学校、地域、家庭で「あの日」を語り合い、記憶の風化に抗い続けることこそが被災地への最大のエールなのではないだろうか。

ある東日本大震災の語り部の言葉を思い出す・・・。「忘れないことこそが最高の支援」。

(広報委員長:日向 明)

発行:2024年4月 発行責任者:会長 隅河内 司 編集:公益社団法人神奈川県社会福祉士会広報委員会 印刷:株式会社ガリバー
問合せ先:公益社団法人神奈川県社会福祉士会 〒221-0825 横浜市神奈川区反町3-17-2 神奈川県社会福祉センター4F

植物油インキ使用